

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来 成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用	感染症(PT)	出典	概要
251	2006/3/27	51057	日本赤十字社	合成血	合成血	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Tecknika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												細菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020例中108例(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。患者の31.2%が重度の敗血症、11.7%が敗血症ショック、3.9%が多臓器不全を呈した。原因菌の血清型のうち、78%は23価多糖体ワクチンに含まれていた。35名(45.5%)の患者が死亡し、そのうち21名(27.3%)がNPBIに関連すると考えられた。
												細菌感染	Transfusion 2005; 45: 1845-1852	2004年3月にアメリカ赤十字の36の地域血液センターすべてにおいて、成分採血由来の血小板製剤における細菌汚染についてルーチンの品質管理試験を行った。細菌試験の最初の10ヶ月で350,658例中226例が初期陽性であった。初期陽性のものにつき再度検体採取したところ、68例で細菌汚染が確認され、陽性率は0.019%であった。分離された細菌はブドウ球菌属(47.1%)、連鎖球菌属(26.5%)、グラム陰性菌(17.6%)であった。スクリーニングで陰性であった成分に対して、敗血症性輸血反応と疑わしい症例が3例特定され、これらはすべてコアグララーゼ陰性ブドウ球菌が原因とされた。
												感染	Eurosurveillance 2005; 10(11): 051110	1999年以来、スウェーデンでは梅毒症例数が増加している。男性と性交渉する男性の間で激増しているため、2004年は前年比7%増の192例で、1980年代半ば以来最高となった。感染の60%は男性間性交渉、38%は男女間性交渉によるもので、約半数(97例)がストックホルム郡で報告されている。ストックホルム郡外の症例のうち2例は海外で血液製剤により感染した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来 成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年12月26日の津波/地震に伴うマラリア予防勧告がインドネシアのアチェ州を除いて災害前の勧告基準に戻っていた。
												マラリア	AABB Weekly Report 2005年8月5日	2004年11月24日から実施されていたCDCによるドミニカ共和国アルタグラシアとトウアルテ州への渡航に関連するマラリア予防勧告が解除されていた。
												マラリア	ProMed 20051015-0070	フランス人旅行者1名が2005年8月～9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴なし。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もなし。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5～6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												トリインフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。
												パルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	パルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance weekly release 2005;10(8)	2005年7月、スペイン保健省はスペインにおける初のvCJD可能性症例を発表した。患者は2004年11月頃兆候を示し、2005年7月に死亡している。患者は輸血歴、英国への渡航歴等の特異的リスク因子はなかった。確定のために英国の国立CJDサーベイランス部へ調査を依頼中である。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Rec 2005; 157: 206	6月齢の雌ヒツジ30頭にBSEウシの脳5gを経口投与し、6ヶ月後に、同月齢のBSE脳非投与のヒツジ20頭と、一つの群れとして生活させ、自然交配させ、出産させた。投与群では30頭のうち24頭が投与後655日から1056日の間に死亡した。2003年に生まれた2頭の子羊はBSEで死亡した。子羊の母親2頭は臨床症状を呈した。ヒツジにおいてBSEが、子宮内や出産前後に伝播しうることが初めて確認された。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005;11(25):3	カナダ血液サービスは数年前にvCJDが地域の血液供給を介して伝播することのないように実施されていた規制を緩和した。新たな基準は、「1980年1月1日～1996年12月31日に累計で英国に1ヶ月以上またはフランスに3ヶ月以上滞在した人でなければ供血可能とする」に変更する予定である。ただし1980年以降に特定の西欧諸国で血液、赤血球、血小板、血漿を輸血された人は不適格である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 982-985	PrPscをPrPcで増幅するPMCA(protein misfolding cyclic amplification)法を自動化し、PrPscの増幅率を向上させた。標準的な検出方法で140PMCAサイクルで感度が6600倍上昇、2回連続で繰り返した場合、感度が1000万倍に上昇し、PrPscの8000分子相当が検出可能となった。この方法で、スクレイピー感染ハムスターの血液中PrPsc検出に成功した。血液中でPrPscが生化学的に初めて検出され、プリオン病を早期診断するための非侵襲的方法の開発が見込まれる。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nature 2005; 437: 257-261	伝達性海綿状脳症(TSE)におけるPrPを含む凝集体のサイズと、感染性及び変換活性との関係を調べたところ、14-28PrP分子に相当する凝集塊を持つ非線維粒子がTSEの最も有効なイニシエーターであることが示唆された。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。
												変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明確なスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												変異型クローンフェルト・ヤコブ病	ProMED 20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												ウイルス感染	ProMed 20050824-0080	スウェーデンの研究グループはこれまで知られていなかった小児の重症呼吸器感染の原因である可能性が高いウイルスをHuman bocavirusと命名した。小児病棟540名の小児の検体において17名の病因であった。小児において重篤呼吸器感染症の12-39%の原因が同定されていない。
												ウイルス感染	Am J Trop Med Hyg 2005; 73: 428-434	2003年コンゴ共和国の医療機関において、サル痘のヒトヒト感染が発生した。ヒトにおけるサル痘の流行を確認した初めての報告である。確定、疑いを含め11名でサル痘が観察された。患者のすべてが18歳以下で、1名が死亡、1名に重度の後遺症が認められた。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソーム型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来 成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用	感染症(PT)	出典	概要
												コロナウイルス 感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	ProMed 20050928- 0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルチニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	Blood 2005; 106 (11): Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅斑、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となる。
												ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 460-467	米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があつた。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。
												ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 451-459	2003年と2004年のアメリカ赤十字のウエストナイルウイルス(WNV)検査プログラムからのデータを分析した。ルーチン検査で540例のドナーがWNV RNAに陽性で、そのうち362例がIgM抗体陰性であり、感染するおそれがあつた。核酸増幅検査の迅速な実施により、陽性ドナーの同定がされ、感染性のある成分を除去することができた。
												ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter 2005年8月19日	2005年7月、米国農務省はウマのウエストナイルウイルスを予防するため、初めてDNAワクチンを認可した。DNAワクチンはウイルスの遺伝物質の小片を使用して対象の感染防御免疫を活性化させる。ヒトへの応用が期待される。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	修正 使用	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	朝日新聞 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日 広瀬ら	化学療法および造血細胞移植療法実施後に、重篤なB型肝炎を生じた症例を複数経験した。全例とも治療前のHBs抗原は陰性であり、治療中の感染はなかった。HBs抗体およびHBc抗体陽性の症例があったことから、免疫状態の変動に伴いHBVの再活性化が生じたと推測される。
												B型肝炎	第47回日本臨床血液学会総会 2005年9月17-19日 藤巻ら	移植前HBsAg陰性、HBsAb陽性で、同種造血幹細胞移植を受けた患者6例のうち1例が、移植後15ヶ月で劇症B型肝炎を発症した。このような患者ではHBウイルスをモニタリングする必要があると考えられる。
												B型肝炎	第29回日本血液事業学会総会 2005年10月12-14日	2004年に全国の医療機関から日赤へ報告された輸血後HBV感染疑い症例の現状とその傾向について解析した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	J Clin Microbiol 2005; 43: 4413-4417	HCV陽性患者の唾液及び歯肉清滲出液(GCF)中のHCV-RNAを定量したところ、18例中14例で、唾液検体では陰性であったが、GCFではHCV-RNAが認められた。また26例中20例で唾液中よりGCF中のHCV-RNA値が高かった。HCVの感染経路を考察する必要がある。
												C型肝炎	The 43rd Annual Meeting of IDSA 2005年10月6-9日	2003年3月~4月にかけて、あるペインクリニックで3回の処置を受けた急性C型肝炎患者を調査した。感染リスク患者35例中4例が新たにHCVに感染していた。複数回使用したリドカインのバイアルが汚染されていたためと考えられた。
252	2006/3/27	51058	バクスター株式会社	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	人血漿	米国	有効成分	無	無	無			
253	2006/3/27	51059	バクスター株式会社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	無	有	無			
254	2006/3/27	51060	バクスター株式会社	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅳ因子	乾燥人血液凝固第Ⅳ因子	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
255	2006/3/27	51061	バクスター株式会社	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	中国	添加物	無	有	無			
256	2006/3/27	51062	バクスター株式会社	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体	乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
257	2006/3/27	51063	光製薬株式会社	ダルテパリンナトリウム注射液	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	OIE Disease Information 18(36) 2005年9月9日	中国四川省で647頭のブタがStreptococcus suis感染で死亡した。この流行病は2005年6月後半に始まり、7月20日頃ピークとなり、その後急速に減少した。抗生物質の投与、衛生状態の改善、ワクチン接種などが流行病を抑えるのに有効であった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												レンサ球菌感染	Science 2005; 309: 1308-1309	WHOが中国でのブタ由来の感染症について調査した。中国衛生部の報告によると中国四川省で流行した感染症は2005年7月中旬がピークで、同年8月5日以降は新たな感染例はない。ブタは600頭以上が死亡し、ヒトでは感染例204例のうち38例が死亡した。ほぼ全ての患者が病気のブタとの接触があった。ヒトとブタの検体を調べたところ、Streptococcus suis serotype 2の存在が確認され、その他の細菌やウイルスは認められなかった。当局によるとヒトからヒトへの伝播は見られなかった。WHOによると、新しい変異型が毒性の強い2型serotypeかは今のところ明らかではない。
												レンサ球菌感染	Weekly epidemiological record 2005; 80: 269-276 http://www.who.int/wer	中国衛生部は2005年8月3日に、ブタでのStreptococcus suis流行に関連した疾病がヒトで206例見られたと報告した。そのうち38例が死亡し、18例が重篤である。全例が四川省で発生し、そこでは同時期にブタでStreptococcus suis感染が流行していた。中国の疫学者によると、ヒトでの最初の発症は2005年の6月末であった。患者のほとんどが農家の成人男性であり、病氣や死んだブタに接触したことが感染の原因とみられる。この件に関してWHOはさらに詳しく調査中である。
258	2006/3/28	51064	ZLBベリング株式会社	人血清アルブミン①~③ 人血液凝固第XⅢ因子④ フィブリノゲン加第XⅢ因子⑤、⑥	人血清アルブミン	ヒト血液	①④⑤⑥米 国、ドイツ、オーストリア②③米 国	①~③有効成分 ④~⑥添加物	有	有	無	ウエストナイルウイルス	N Engl J Med 2005; 353: 460-467	米国の血液システム研究所は2003年7月から、ウエストナイルウイルス(WNV)RNA検査のために16検体のミニプールについて核酸増幅試験を開始した。2003年7月1日から10月31日に、677,603供血が同検査を受け、183例が陽性で、検出率は0.027%であった。高発症地域からの供血で、ミニプールテスト陰性であった23,088供血を個別に検査したところ、低レベルのWNV血症30例が検出された。そのうち数例は抗体陰性で感染性があった。高発症地域での個別検査の必要性が裏付けられた。
259	2006/3/28	51065	ZLBベリング株式会社	フィブリノゲン加第XⅢ因子	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
260	2006/3/24	51066	メルク・ホエイ株式会社	ダルテバリンナトリウム	ダルテバリンナトリウム	ブタ小腸	中国	有効成分	無	無	無			
261	2006/3/29	51067	ジェンザイム・ジャパン株式会社	アガルシダーゼベータ(遺伝子組換え)	アガルシダーゼベータ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞		有効成分	無	無	無			
262	2006/3/29	51068	ジェンザイム・ジャパン株式会社	アガルシダーゼベータ(遺伝子組換え)	ドナー子ウシ血清	ドナー子ウシ血清	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
263	2006/3/30	51069	日新製薬株式会社	塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの気管	アメリカ合衆国、カナダ、ウルグアイ、アルゼンチン、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	無	無	無			
264	2006/3/30	51070	日新製薬株式会社	ダルテバリンナトリウム製剤	ダルテバリンナトリウム	ブタの小腸	中国	有効成分	無	無	無			
265	2006/3/30	51071	三菱ウェルファーマ株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア	有効成分	無	無	無			
266	2006/3/30	51072	財団法人化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	胚初代培養細胞	ニワトリ	メキシコ	製造工程	有	無	無	トリインフルエンザ	J Infect Dis 2005; 192: 1318-1322	1999年から2003年に養鶏場労働者から集めた血清検体983例を分析し、イタリアで流行したインフルエンザの原因となったトリインフルエンザウイルスについて調べた。低病原性トリインフルエンザH7N3ウイルスが流行した2003年に集められた検体の3.8%で、抗H7N3抗体および高病原性インフルエンザH7N1に対する抗体である抗H7N1抗体の両方が検出された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用	感染症(PT)	出典	概要
												トリインフルエンザ	厚生労働省 平成18年1月10日 http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/01/h0110-4.html	平成17年6月以降、高病原性鳥インフルエンザが確認された茨城県及び埼玉県の養鶏場の従業員等及び防疫業者の一部に対し、感染症の有無を確認するために健康状態及びウイルス検査を実施したが、インフルエンザ様症状を示す者はなく、PCR検査によるウイルス遺伝子検査の結果はすべて陰性であった。また、血清中和抗体検査では、第1回抗体検査と第2回抗体検査との間で4倍以上の抗体価上昇が15例で見られた。全体としては353名中77名が陽性と判定された。
267	2006/3/30	51073	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	トリプシン	ブタ脾臓	カナダ、アメリカ	製造工程	無	無	無			
268	2006/3/30	51074	財団法人 化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血液		有効成分	無	無	無			
269	2006/3/31	51075	日医工株式会社	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
270	2006/3/31	51076	日医工株式会社	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
271	2006/3/31	51077	扶桑薬品工業株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	E型肝炎	日本公衆衛生雑誌 2005; 52(8S): 922	北海道における急性E型肝炎患者を対象とし、E型肝炎ウイルス感染および重症化の危険因子について検討した。急性E型肝炎患者27例中25例(93%)が発症の2週から8週前にブタレバーかホルモンを摂取していた。IV型感染例はIII型より重症であった。また基礎疾患の有無が重症化と密接な関連があった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来 成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用	感染症(PT)	出典	概要
												サルモネラ	ProMed 20051002-0040	米国ウィスコンシン州Walworth郡健康局は、同郡で発生したサルモネラ感染症12例の患者のうち7例が農産物品評会に参加していたと発表した。ブタ小屋にいたことが原因と考えられたが、ブタの糞からはサルモネラ菌は検出されなかった。患者は全員回復した。
												サルモネラ	Z Gastroenterol 2005; 43: 707-713	2004年の春から夏にかけて、ドイツの多くの州で、Salmonella enterica serovar Giveによる感染症が流行した。感染源や感染の特徴を明らかにするために調査を行った。その結果、生のブタ挽肉の消費と本感染症と相関があることが示された。ブタ肉から分離された菌株は患者から分離されたものと一致した。